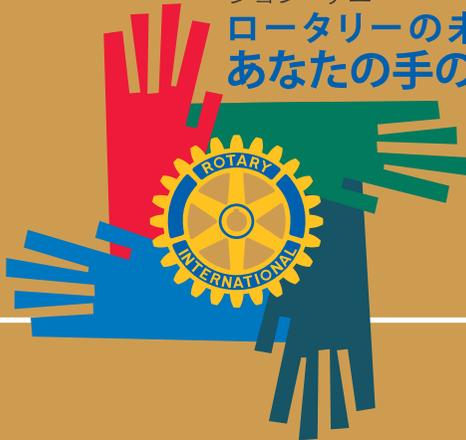


2009～2010年度 国際ロータリーのテーマ
ジョン・ケニー

ロータリーの未来は
あなたの手の中に



会長／対馬健一 幹事／中出敏彦

RI第2510地区

留萌ロータリークラブ 会報

2009▶2010 WEEKLY REPORT

留萌ロータリークラブ会長テーマ

親睦でクラブの活力と結束を、 そして奉仕は足もとから

プログラム

- 本日
来賓卓話「これからの留萌市」
留萌市長 高橋 定敏様
- 次週予定
来賓卓話「これからの北海道」
道議会議員 石塚 正寛様

会員誕生日
2月7日 高田 潔

No. 2405

第28回 2月3日

出席報告

前
例
会

会員総数	44名
出免会員	4名
出免出席	3名
出席会員	33名
出席率	76.74%

前
々
会

第25回 1月13日

出席会員	44名
メイクアップ	0名
修正出席率	100%

例会／毎週水曜 12:15～13:15 留萌産業会館2F

🖋️ 会長報告

- 第8回定例理事会を2月1日(月)に変更して開催します。理事・役員の皆様出席をお願いします。
- ハイチ大地震義援金のお願いが来ております。理事会にて協議いたします。
- 札幌幌南RC創立45周年記念式典の出席に対しての礼状を頂きました。

😊 ニコニコBOX

- ・第8回定例理事会日程を私の都合で変更させていただきました。 対馬会長
- ・3年前にもこれが最後とスキーを買いましたが、また今年もこれが最後だと思いまた買ってしまいました。あと何年も乗れないのに、見れば欲しがる悪い癖です。 中出幹事

📄 幹事報告

- 1) 米山奨学会から確定申告用の領収書が届きましたので、関係者に配付いたします。

前回	580,000円
今回	5,000円
累計	585,000円

 プログラム……………

「続・我が生い立ち」



越野 俊興 会員

私は昭和11年に四男一女の次男として生まれました。

昭和16年12月8日に第二次世界大戦がはじまりましたが、

翌年の昭和17年に私は小学校に上がりました。教科書はお下がり、服も兄のお下がりでご我慢させられました。「欲しがりません。勝つまでは」のスローガンのもとで、我慢、我慢の毎日をご過ごした記憶があります。私の母も朝ごはんの片付けが終わると、芋の皮むきを始めて昼ごはんの準備をしていた記憶があります。したがって、弁当も芋とカボチャを持って行きました。4年生の時に終戦になり、国語の教科書の半分位をスミで塗りつぶした記憶があります。

当時は食糧難で、私の家でも小平まで行って芋とカボチャを作っていました。学校も4日くらい農繁休暇があり、家の手伝いをさせられたものでした。昭和22年に6・3・3制に学校制度が変わり新制中学が出来たが、校舎が無く、中1の時は東光小学校の東側の校舎を間借りして、中2の時には元電電公社の所にあった青年学校の古い校舎で学び、中3の時に初めて新校舎に入りました。

高校1年の時も校舎が足りず、港南中学校の一部の教室を借りて授業をしていました。従って上級生のいない学校生活が4年間も続きました。ここで父親が、私か兄のどちらかが家業の寺を継ぐようにと話しましたが、兄は絶対いやだと言い、国立大学へ入るため猛勉強をはじめました。同じ部屋で勉強をしていたので、早く寝ると駄目だと言って午前1時ころまでつき合わされました。兄は目的通り東北大学に合格しましたが、私は高校3年の2学期頃に学力も落ち、少しノイローゼ気みになりすっかりやる気をなくし、止むを得ず寺を継ぐ決心をして大正大学の特待生試験を受験し、43人の内の2人に選ば

れました。

当時、米がまだ配給で外食券を持って外食券食堂で食べていました。友達と飲み会があるとバーでハイボールを飲んだものでした。

卒業後、檀家周りをしていましたが、第2人を大学へ行かせるため、無給料で働いておりました。そのため、留萌で最初だったと思います。が塾をはじめました。一番多いときには72人位居て、6クラスつくりました。問題は自分で作り、ガリ版印刷をしていました。それでも暇の時にはよくパチンコに行き、14日間毎日一台づつ定量にして、一年分のタバコをもらった事もあります。よく川合さんに会いました。

昭和46年ころより50万円を元手に株をはじめました。儲けの半分は何か好きな物を買って、後の半分を元手に加え、売買を繰り返して、ピアノ、電子レンジ、冷凍庫、自分の車等を買うことが出来ました。バブルの弾ける直前、儲けで自分の車と娘の車の2台を買うことが出来ました。ちなみに私は27年間無月給で過ごしました。



渡部 英次 会員

我が生い立ちをその時の歴史と共に、覚えている限り話したいと思います。ただ、77年強の期間をたった15分で話すの

は無理とは思いますが、頑張ります。

私の父は新潟県の片田舎の旅館の子として明治32年12月20日、10人兄弟の10番目で生まれ、十歳と命名され、大正時代に神田の電気学校を卒業しました。母は長野の片田舎の羽毛山村で明治33年1月5日8人兄弟の2番目で生まれ、兄弟は末の方は六人、七人、八人と番号で命名されました。家業は農業、養蚕業でした。田舎の学校を卒業、その後、縁あって父母は結婚、東京で生活を始め、1923年関東大震災にあったと話していました。そこで昭和4年、私の兄が生まれました。兄は卒業後KDDに勤め、現在年金生活中です。

私の経歴を話しますと、私の父が昭和5年に

茨城県平磯の電気試験所に勤務、1931年満州事変の次の年、1932年(昭和7年)その地で私は生まれました。ちょうど水戸の近く、現在の日立製作所の辺りです。故郷は生まれ育った所と言いますが、2歳にして父がNHKに入り旭川放送局に勤務、その時、1937年に支那事変が発生しました。家の窓から兵隊さんの行進を見た記憶があります。人力車が走っていました。当時幼稚園は無く、託児所に預けられたと思います。

弟が昭和13年に生まれ、親は男の子3人のためがっかりして名前を考えなかったようです。寅年だったため、ぎりぎりになって虎雄と命名しました。父と男兄弟3人で風呂へ行き、縦に並揃んで、背中こすりをした記憶があります。弟も父と同じ工学部を卒業した後、電気関係の仕事をして現在年金生活中です。

その後私は、旭川啓明小学校に入学、小学校3年まで過ごしました。当時の記憶で遊びは戦争ごっこ、田んぼの側溝で泥を掬ってどじょう取りなど、今の様な多彩な遊びはありませんでした。小学校3年の時に父が札幌中央放送局に移動、札幌円山小学校に移りました。その時の1941年(昭和16年)太平洋戦争が東条内閣の時に真珠湾の奇襲攻撃と共に始まりました。当時の新聞は戦果ばかり報道されていました。イギリスの戦艦プリンスオブウェールズがシンガポール沖で日本の戦艦により撃沈され新聞に写真と共に載っていたのを思い出します。札幌では食料事情が悪く、留萌海岸で大量に採れる鯨を庭で干し、身欠き鯨として家族に食べさせてくれました。

1945年(昭和20年)太平洋戦争終戦の年の春に、父が函館放送局に移動のため、函館大森小学校へ数ヶ月移りました。私の故郷は良い思い出はありません。移るたびに友達がなくなります。ちょうどその年の春、旧制函館中学校に入学しました。その7~8月頃、校庭で防空壕堀りをしていた時、上空を大きな飛行機が一機通過して行きました。ボーイング17だったと思います。その30分後位に空襲警報のサイレンが鳴りました。その後、艦載機が多数襲来し、函館の所々に爆弾を落としていきました。私たちは函館山

の中腹の防空壕に避難しました。町の中心部の木造住宅が危険という事で沢山壊されました。終戦後、学校教育は新制度に移行、函館中部高校併設中学となりました。当時は食料事情が悪く、ほっけ、鳥賊などを沢山食べさせられました。中部高校の時に学区制になり、無理やり函館西高に移されました。6ヶ月通いました。現在函館西高と中部高校の卒業となっています。終戦当時は、長野の母の実家に兄と時々行かされました。食糧事情が悪かったため、農家には食べ物が沢山あったからです。私たちは太って帰りました。その頃は農家が大変良く見えました。79歳で逝った祖母は大変喜んでいました。

縁があつて札幌医科大学に入学し、整形外科を専攻し、現在に至ります。卒業後、どうせ国家試験の後には大学に帰るとの事で、旭川厚生病院でインターン制度の研修をしました。当時の院長は藤井敬三先生で、北海道の共産党の親玉でした。インターン終了後、医師国家試験があり、その後、札幌医科大学整形外科講座の医局に入局しました。そこで当時の川邨文一郎教授の指導を受けました。彼は俳人であり、父は東大医学部を卒業後、小樽で開業していました。

北海道で一番古い開業医です。札幌整肢学園の医療課長の時、当時大赤字の留萌市立病院に整形外科を新設のため勧められました。昭和39年5月のことです。同年2月に駅前富山先生が病院をオープンされた年です。その3年後、安保の学園紛争が始まり、留萌に永住する事となりました。

川邨文一郎教授と富山唯夫先生の2人にロータリー入会を勧められました。その後、ロータリー活動にはまり現在に至ります。ガバナー以外はすべてしたような気がします。しかし、一生はまるつもりはありません。臨床のほうが、一生の生きる道と考えています。縁あつて留萌に来て、昭和32年に今の家内と夫婦となりました。1男2女が生まれて、長男、長女は私と同業、次女は同業と結婚して1男1女を互いに設け、現在子供の教育中です。結局、孫4人という事になります。

子供たちに「あと3年で死ぬ」と言われて暫

第27回 1月27日(水) 天候/曇

くたちます。今年また言われたので「先に死な
ん」と言ってやりました。ちなみに、父は59歳
で脳卒中、76歳で死亡。母は95歳まで生きまし
た。ひょっとしたら母に似たのかも。

暫く、現状で過ごしたいと思いますが、早め
にゴルフの秘密トレーニングを雪解けを待って
始める予定です。



(先週の続き/松崎会員)

また、日経新聞は昨年12月17日から3日連続
で第一面に「デフレと闘う」という記事を上、
中、下の3回に分け特集を組みました。上では
牛井最大手の「すきや」の並盛りが去年4月に
350円から330円へ、2月にさらに280円へ引き
下げたことによって、価格は2001年から2004年
レベルになった話や、薄型テレビのソニーが昨
年11月の税抜き平均価格が10万1,200円で、前
年同月比16%低下、2001年度比4分の1の水準
で2010年3月期テレビ事業で、500億円の赤字
予想を750億円に下方修正するという記事が出
ており、過酷な消耗戦はまだ続くとしています。

最後に、私の勤務先の信金の業務にも関係す
ることで、デフレ関連で先ほど住宅ローンの返
済が苦しいという日経新聞の話をしました。が、
昨年11月に「中小企業等金融円滑化法」が国会
で成立し、12月4日に施行されました。この法
律は、金融機関が中小企業等から返済条件の変
更等の申し込みを受けた場合に、できる限り、
当該中小企業の事業についての改善又は再生の
可能性を勘案しつつ、貸付条件の変更旧債の借
り換え等について対応するよう努めなければなら
ないと規定しています。当初はそういう申し
出を受けた金融機関側に一律に応諾義務を定め
る「モラトリアム」法案なるのではないかと
の憶測もありましたが、最終的には金融機関の負
う義務は努力義務とされた訳です。これは一応
の応諾義務を認めた場合、中小企業家側に「努
力して返済しなくて良い」というモラルハザ
ードが発生する他、政府が中小企業者側と民間金
融機関のあいだの私人間契約に介入すること
になり、自由な資本主義の原則を歪める恐れがあ

るからだと言われています。前々から、金融機
関は中小企業者等の条件変更には対応してきて
いますので、今始まったことではありませんが、
法制化されたという事で、情報の開示とか報告
とかの義務が発生している事は確かです。もし
何かわからない事や相談したい事がありましたら
、ぜひお近くの信金窓口に声を掛けて下さい。
最後は多少信金のPRをさせていただきました。
ご清聴ありがとうございました。

